

2021年2月8日

## 2021年3月期（2020年度）第3四半期連結決算電話会議 内容説明スクリプト

### I. 全体の概要説明

それでは、本日発表いたしました当社2021年3月期第3四半期連結決算の概要についてご説明します。決算短信の表紙サマリーをご覧ください。

#### 1. 2021年3月期第3四半期連結決算 業績概要

##### 1) 当年度第3四半期連結経営成績

当年度第3四半期の連結経営成績は、前年同期比で増収、減益となりました。

- ① 売上高 6,721億円 前年同期比273億円の増収  
(売上総利益 1,002億円 前年同期比131億円の増益)
- ② 税引前利益 646億円 前年同期比29億円の減益
- ③ 親会社の所有者に帰属する四半期利益 454億円 前年同期比61億円の減益  
となりました。

##### 2) 全般概況

ここからは、当年度第3四半期連結決算の全般概況をご説明いたします。決算短信の表紙サマリーまたは決算補足説明資料の1ページ上段をご覧ください。

#### [第3四半期連結決算 業績概況 前年同期比較]

##### ① 当年度第3四半期の金属価格の状況

銅およびニッケル価格については、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け前年度末にかけ大幅に下落しましたが、中国経済が回復しつつあることなどを背景に上昇基調で推移しました。金価格は当該感染症の影響による世界経済の先行き不透明感により上昇基調となり、第2四半期連結会計期間をピークとして推移しました。この結果、銅および金価格は前年同期間を上回り、ニッケル価格は、回復基調ではあるものの平均価格では前年同期間を下回りました。

##### ② 当年度第3四半期の連結税引前利益の状況

当年度第3四半期連結累計期間では前述の金属価格の環境下、相場要因は全体で+37億円と好転しました。加えて、コスト差+85億円、数量差+43億円、材料事業の増益で+5億円等の好転要因がある一方で、前年度と今年度の2つの一過性要因による影響の合計額▲153億円とその他の為替差損益▲40億円を主要因とした悪化要因が上回ったことで、連結税引前利益は前年同期比29億円減益の646億円となりました。

##### 3) トピックス

ここからは、当年度第3四半期連結決算における各トピックスについて概況をご説明します。

##### ① 海外銅鉱山

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う国家非常事態宣言を受けて3~5月に保安操業を実施したセロ・ベルデを除く各鉱山の当年度第3四半期累計生産量は、コロナウイルス感染症拡大

の影響が軽微であったことにより、前年同期比好転ないしは前年同期並となりました。当期の各鉱山の損益も同様にセロ・ベルデを除き前年同期比好転ないしは前年同期並となりました。

#### モレンシー

当年度にコロナ禍起因による操業計画の変更を実施したものの、第3四半期累計生産量は前期よりリーチング操業が好調、高水準のカソード生産が継続しており、前年同期比では1千トン減少の344千トンとなりました。

#### シエラゴルダ

安定操業の継続と銅品位向上等により鉱石処理量が増加したことで、当期の生産量は前年同期比28千トン増加の109千トンとなりました。

#### セロ・ベルデ

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う国家非常事態宣言を受けて3月中旬から5月中旬まで保安操業を実施した影響により、当期の生産量は前年同期比61千トン減少の272千トンとなりました。

#### ② THPAL (タガニート HPAL)

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い予定休転期間が一部長期化したものの、以降は順調な操業を継続しました。一方、大雨による鉱石性状悪化などがあったことから、当期の生産量は前年同期比1.7千トン減少の22.7千トンとなりました。

#### ③ CBNC (コーラルベイ)

新型コロナウイルス感染症の拡大による影響は軽微であり、順調な操業を継続したことにより当期の生産量は前年同期並の13.9千トンとなりました。

## 2. 2021年3月期 連結業績予想

### 1) 通期連結業績予想の概況

前回11月の2021年3月期第2四半期の決算発表において通期の連結業績予想を見直しましたが、今回も年度累計業績予想の見直しを行いました。

決算短信 表紙サマリー下段、決算短信 添付資料5ページならびに決算補足説明資料の5-6ページをご覧ください。

通期連結業績は、

① 通期売上高 9,040億円 11月通期予想比 460億円の増収

(売上総利益 1,380億円 前年同期比170億円の増益)

② 税引前利益 1,030億円 11月通期予想比 360億円の増益

③ 親会社の所有者に帰属する四半期利益は780億円 11月通期予想比 320億円の増益

と予想しています。

業績予想の前提となる金属価格および為替は、決算短信 添付資料5ページならびに決算補足説明資料の1ページ下段に記載のとおり、第4四半期の前提は、足もとの金属価格の水準を考慮の上将来の需給バランスの予測等を踏まえ、銅 \$7,500/t、金 \$1,850/toz、ニッケル \$7.25/lb、コバルト \$15.5/lb、為替は104円/\$ としました。

今回見直した通期の連結税引前利益は、予想算定の際の前提となる与件において、金価格を除く全ての金属価格の上昇と為替の好転を見込むことから、11月通期予想比較では相場要因全体で+263億円の大幅な好転を見込みます。相場要因以外の項目については、コスト差▲45億円、数量差▲11億円などの悪化要因があるものの、材料事業の増益+40億円、一過性要因であるSierra Gorda S. C. M. への貸倒引当金戻入+91億円およびQB2プロジェクトの建設中断コスト減少+7億円の好転要因があることで、全体として増益要因が大幅に上回ることから、通期の連結税引前利益は11月通期予想比 360億円増益、前年度比でも240億円増益となる 1,030億円と予想しています。

## 2) トピックス

ここからは、通期連結業績予想における各トピックスについて概況をご説明します。

### ① 海外銅鉱山

昨年10～11月にかけてストライキ発生による操業停止影響を受けたカンデラリアを除き、各鉱山の当年度通期の生産量は、概ね11月通期予想並を見込みます。また、カンデラリアを除く当年度の各鉱山の損益は銅価格上昇の影響等を中心に11月通期予想比増益を見込んでいます。

#### モレンシー

高水準のカソード生産の継続も、通期の生産量の見込みは、11月通期予想比で5千トン減少の446千トンを見込みます。

通年の売上総利益は、銅価格の上昇による影響が大きく、11月通期予想比で増益を見込みます。

#### シエラゴルダ

安定操業と高い銅品位により鉱石処理量は高水準が継続することで、当期の生産量は11月通期予想比3千トン増加の148千トンを見込みます。

#### セロ・ベルデ

保安操業実施後に操業のランプアップを進めたことにより鉱石処理量は順調に計画値水準まで回復し、通期の生産量は11月通期予想並みの367千トンを見込みます。

#### カンデラリア・オホス

昨年10～11月にかけてストライキ発生による操業停止影響を受けたことにより、カンデラリアの当期の生産量は11月通期予想比18千トン減少の95千トンを見込みます。

### ② THPAL

下期に発生した大雨による鉱石性状悪化などにより、通期の生産量は11月通期予想比1.1千トン減少の31.6千トンを見込みます。一方、販売量の見込みは、11月通期予想比で0.6千トン減少の30.8千トンを見込みます。

### ③ CBNC

当年度の生産量は11月通年予想比1.1千トン減少の19.2千トンを見込みます。また、販売量の見込みも11月通期予想比で1.5千トン減少の17.2千トンを見込みます。

## 3. 配当

配当についてご説明いたします。

決算短信 サマリー表紙下段および本日公表しました「業績予想および配当予想の修正等に関するお知らせ」をご覧ください。

今回、通期業績予想を修正したことにより、配当予想を見直しました。期末の配当予想については、前回 11 月時点予想に比べまして、41 円引き上げ、期末 78 円/株といたします。この結果、22 円/株で既に実施済みであります中間配当と合わせ、年間予想配当金は前回 11 月時点予想比で計 41 円増配の 100 円/株、配当性向は 35.2%となる予定です。

## II. 売上総利益、セグメント利益の内訳他の詳細

それでは、2021 年 3 月期第 3 四半期決算「補足説明資料」をご覧ください。

### 1. 1 ページ目「決算・予想比較」について

#### 1) 2020 年度第 3 四半期累計決算 vs 2019 年度第 3 四半期累計決算

1 ページ目上段の表が当年度第 3 四半期累計決算の前年同期比較です。増減①-②を中心にご覧ください。

金属価格と為替につきましては、その表の下段に記載のとおりです。

銅は\$6,345/t で、前年同期比+\$412 の上昇となりました。足元は\$7,900 前後で推移しています。

ニッケルは\$6.41/lb で、前年同期比▲\$0.13 の下落となりました。足元は\$8 前後で推移しています（直近 LME+SHFE 在庫は、263 千トン）。

金は\$1,832/toz で、前年同期比+\$410 の上昇となりました。足元は\$1,800/toz 前後で推移しています。

コバルトは\$15.06/lb で、前年同期比▲\$0.47 の下落となりました。足元は上昇し直近 2 月 5 日メタルブリテンの Standard-Low で\$21.75/lb となっています。

為替の平均レートは 106 円 12 銭と前年同期比 2 円 56 銭の円高となりました。足元は 105 円前後で推移しています。

当年度第 3 四半期の業績については、売上高は 6,721 億円で前年同期比+273 億円の増収、税引前利益は 646 億円で前年同期比▲29 億円の減益となりました。

その増減分析は、表の脚注に記載の通り、相場要因による影響が+37 億円で、このうち、価格・条件差が+73 億円、うち、ニッケルで+11 億円、コバルトで▲7 億円、金で+66 億円などとなっており、金の価格上昇のプラス影響が大半となっています。為替差は▲20 億円、在庫評価は前年同期比で▲16 億円となりました。

数量差では+43 億円の好転です。安定操業を継続している菱刈鉱山の他、電気銅、電気ニッケルなどで前年同期比増販となったことが主な要因です。その他の為替差損益については、円高により▲40 億円の悪化、コスト差については、順調な操業・生産を継続したシエラゴルダやモレンシーなどで単位当たりコストの好転があったことから+85 億円の好転となりました。

材料事業は、電池材料等で新型コロナウイルス感染症の拡大による需要の一時的な低迷を受けて前年同期比減販となりましたが、粉体材料や結晶材料等で前年同期比増販となったことなどにより、前年同期比+5 億円の増益となりました。

その他の特殊要因として、前年同期に計上した太平金属工業の固定資産売却益がなかったこ



とによる▲90億円と、QB2プロジェクトの建設中断にかかる発生コストの期間費用としての計上額▲63億円という2つの大きな一時的減益要因がありました。この一時的減益要因合計▲153億円とその他の為替差損益などの悪化要因が、コスト差・数量差・相場要因・材料事業増益といった好転要因を上回ったことで、税引前利益は前年同期比で29億円減益となりました。

## 2) 2020年度通期業績予想(2月予想) vs (11月予想)

続いて、今回見直した2020年度の通期業績予想と前回11月予想との差異につきまして、1ページ目下段の表をご覧ください。

業績予想の前提とした金属価格および為替与件をその表の下段に記載しています。③の欄、2020年度第4四半期予想の前提は、銅は\$7,500/t、ニッケルは\$7.25/lb、金は\$1,850/Toz、コバルトは\$15.5/lb、為替については104円/\$としました。この結果、④の欄、今回2月の年間予想の前提は、銅は11月予想比+\$518の\$6,634/t、ニッケルは+\$0.5の\$6.62/lb、金は▲\$19の\$1,837/Toz、コバルトは+\$0.5の\$15.17/lb、為替については11月予想比+13銭円安の105.59円/\$となっています。

この前提のもと、2020年度の通期業績予想は増減④-⑤の通り、売上高は9,040億円で11月予想比+460億円の増収、売上総利益は11月予想比+170億円増益の1,380億円、税引前利益は11月予想比+360億円の増益となる1,030億円と予想しています。その増減分析は、表の脚注に記載の通り、相場要因による影響が+263億円で、このうち、価格・条件差で+243億円の好転、うち、銅で+174億円、ニッケルで+63億円、コバルトで+9億円、金で▲3億円などとなっています。為替差は+2億円、在庫評価は+18億円の好転を見込んでいます。

数量差は▲11億円の悪化を見込んでいます。モレンシー、CBNC、THPALなどで11月予想比減販となったことなどが主な要因です。その他の為替差損益については▲7億円の悪化、コスト差については▲45億円の悪化を見込んでいます。11月予想比減産のCBNC、THPALなどで単位当たりコストの悪化を見込んでいることなどが主な要因です。材料事業では電池材料、粉体材料などで11月予想比増収となることなどから+40億円の増益・好転を見込んでいます。

その他の一時的特殊要因としては、Sierra Gorda S. C. M.への過去に計上した貸倒引当金の一部戻入による+91億円、QB2プロジェクトの建設中断コスト計上額が、11月予想で見込んでいた70億円から63億円へ減少することによる好転+7億円などを見込んでいます。

### 2.3 ページ セグメント別対前年同期実績比較(売上総利益増減)

それでは、3ページをご覧ください。当年度第3四半期累計決算のセグメント別前年同期比較です。

まず、左上の表の【資源セグメント】の売上総利益は433億円と+151億円の増益となりました。

同じページの中段以下に売上総利益の増減説明を記載しております。菱刈鉱山は、前年同期比+114億円の好転となりました。販売量が5.0トンと前年同期比1.1トンの増販となったことから、数量差で+43億円の好転、また、金価格上昇により価格差で+68億円の好転となりました。

海外銅鉱山は、大半がモレンシーですが、前年同期比+29億円の好転となりました。数量差で+5億円、コスト単価差では操業コストの削減・改善などにより+32億円好転しました。価格差については▲4億円の悪化となりましたが、銅価格の上昇により前回第2四半期累計決算から前年同期比の悪化幅は大幅に縮小しました。

次に、【製錬セグメント】の売上総利益は420億円と前年同期比▲3億円の減益となりました。その内訳は下段の表の通りです。

銅系は+50億円好転となりました。主な内訳は、数量差で+7億円、コスト単価差で+5億円、在庫評価で+18億円、その他で+24億円の好転となりました。その他のうち為替による影響は▲4億円となっています。

ニッケル系は▲28億円の悪化となりました。在庫評価で▲34億円の悪化、数量差で電気ニッケルの前年同期比増販などにより+18億円の好転、その他で▲16億円の悪化となりました。その他のうち、為替による影響は▲8億円となっています。

その他、グループ会社間取引のセグメント消去などで▲25億円のマイナスとなりました。

### 3. 4 ページ セグメント別対前年実績比較 (材料事業の製品群別売上高)

それでは、4ページに移りまして上段、当年度第3四半期累計決算の材料事業・製品群別売上高の前年同期比較です。

材料事業全体の売上高は、前年同期比+17億円増収の1,677億円となりました。

電池材料の売上高は、主に第2四半期までの減販・減収により前年同期比▲73億円減収の839億円となりました。粉体材料は増販により+57億円増収の264億円となりました。パッケージ材料は▲10億円減収の123億円となりました。結晶その他の事業は、+43億円増収となる451億円となりました。

3ページ材料セグメントの売上総利益は、前年同期比▲2億円の減益となる165億円、セグメント損益は前年同期比+5億円の増益となる62億円となりました。

### 4. 4 ページ セグメント別対前年実績比較 (持分法投資損益)

次に、4ページ下の表 持分法投資損益について説明します。

持分法投資損益全体では、前年同期比▲58億円の減益となる▲3億円となりました。

減益の要因として大きなものは銅系で、▲33億円の減益となる▲3億円となりました。

銅系のうち、セロ・ベルデは前年同期比▲47億円減益の28億円、カンデラリアとオホスは+3億円増益の22億円、シエラゴルダは+13億円増益の▲68億円となりました。PT Vale Indonesia (PTVI) などニッケル系は+12億円増益の22億円、エヌ・イーケムキャット他は▲37億円の減益となる▲22億円となりました。

なお、PTVIについては、昨年10月に公表のとおり、当社保有株式の一部を売却したことに伴い、第3四半期において持分法適用会社から除外しております。

### 5. 4 ページ 金融収益・費用、その他の収益・費用の主たる増減

持分法投資損益の下の表、「金融収益・費用、その他の収益・費用の主たる増減」には、前述の為替の影響額の外に、太平洋金属工業の固定資産売却益90億円を前年同期の一時的な利益計上項目として記載しております。

### 6. 5 ページ 2020年度通期業績予想比較 セグメント別 (2月予想) vs (11月予想)

5ページをご覧ください。

今回見直した2020年度の通期業績予想と前回11月通期予想とのセグメント別比較です。

業績予想の数値は10億円単位の丸め数字で記載しています。

まず、一番上の表の売上総利益について、2月予想①および増減①-②を中心にご覧下さい。

【資源セグメント】の売上総利益は590億円と11月予想比+40億円の増益となる予想です。中段以下に売上総利益の増減説明を記載しています。

菱刈鉱山は、年間で6トンの販売量は変わらず、金価格の前提見直しにより価格差で▲3億円悪化する一方、コスト単価差と為替差で3億円好転するなど、売上総利益は概ね11月予想並みとなる見込みです。

海外銅鉱山は、前述の通り大半がモレンシーですが、11月予想比で若干減産・減販となることによるコスト単価差、数量差の悪化要因がある一方で、銅価格上昇による価格差+45億円の好転により+37億円の増益となる予想です

【製錬セグメント】の売上総利益は550億円と11月予想比+100億円の増益となる予想です。

銅系は+30億円の増益となる予想です。コスト単価差で▲1億円、在庫評価で▲4億円の悪化となる一方で、条件差で+8億円、その他で+27億円の好転と予想しています。

ニッケル系は+76億円の増益となる予想です。ニッケルおよびコバルト価格上昇の影響による条件差で+72億円、在庫評価が+23億円好転することが主な要因です。数量差とコスト単価差については、CBNC、THPAL等の11月予想比減産・減販により▲7億円、▲22億円の悪化と予想しています。その他+10億円のうち、為替差は+1億円です。

## 7. 6 ページ 2020 年度通期業績予想比較 セグメント別（材料事業の製品群別売上高）

6 ページ上段、材料事業の製品群別売上高の予想比較について説明します。

材料事業全体の売上高は、車載・通信分野ともに新型コロナウイルス感染症による需要縮小は底を打ち、徐々に市況回復・需要増加基調となってきたことから、11月予想比+40億円増収の2,320億円と予想しています。

電池材料は11月予想比+20億円増収の1,170億円、粉体材料は+10億円増収の360億円、結晶、その他の事業は11月予想と同額の620億円、パッケージ材料については11月予想比+10億円増収の170億円と予想しています。

5 ページ材料セグメントの売上総利益は、11月予想比+30億円増益の230億円、セグメント損益は11月予想比+40億円増益の90億円と予想しています。

## 8. 6 ページ 2020 年度通期業績予想比較 セグメント別（持分法投資損益）

下段の持分法投資損益の予想比較について説明します。ここでは、5億円刻みの丸め数字として表示しています。

持分法投資損益全体では、11月予想比+110億円の増益となる70億円と予想しています。

増益の主要因は銅系で、11月予想比+85億円増益の60億円と予想しています。銅系のうち、

セロ・ベルデは銅価格上昇により11月予想比+35億円増益の60億円、シエラゴルダも銅価格上昇により+40億円増益の▲35億円となる予想です。カンデラリアとオホスは、カンデラリアでストライキによる減産の影響はあるものの銅価格の上昇により補完され、11月通期予想比増減なしの15億円となる予想です。

エヌ・イーケムキャット他の部分については、11月予想比+25億円増益の▲20億円となる予想

です。なお、この中には、QB2 プロジェクトを進めているケブラダ・ブランカ銅鉱山の持分法投資損益を含んでいます。

#### 9. 6 ページ 金融収益・費用、その他の収益・費用の主たる増減

金融収益・費用、その他の収益・費用の主たる増減につきましては、前述の為替の影響額の他に、Sierra Gorda S. C. M. への貸倒引当金戻入+91 億円を今回 2 月予想の一時的特殊要因として記載しております。

#### 10. 9 ページ 財務状況（キャッシュフロー）について

最後に、9 ページの財務状況のうち、下段にありますキャッシュフローについて説明します。

当年度第 3 四半期累計期間は、営業活動によるキャッシュフローは 542 億円の収入となりました。投資活動によるキャッシュフローは関係会社株式の売却による収入などがあつたものの、有形固定資産の取得などにより 291 億円の支出となりました。加えて、財務活動によるキャッシュフローは借入金の返済などに伴い 416 億円の支出となったことから、当年度第 3 四半期末の現金及び現金同等物残高は 1,344 億円となり、期首残高から換算差額を含めて 211 億円減少しました。

以上